「フォルクレの肖像、二つの楽譜」　　中田 聖子

フランスのバロック音楽をお好きな方がフォルクレの名からまず頭に浮かべられるのは、アントワーヌ・フォルクレ Antoine Forqueray(父 'le père')でしょうか、 それともジャン=バティスト=アントワーヌ・フォルクレJean-Baptiste-Antoine Forqueray (息子 'le fils')でしょうか?
……あら、貴方はアントワーヌの甥のミシェル? そちらの貴方はその甥のニコラ? …… といった方も居られるかもしれませんが、音楽家一族のこの名から父子のどちらをまず思われるのかは、ヴィオルとクラヴサンのどちらをお好きなのかによって二分されるのではないかと思います。

国王のシャンブル付き楽団の常任奏者であったアントワーヌは、ルイ14世が愛好したヴィオルの名手でした。彼とクラヴサンを弾くアンリエット=アンジェリックの間に生まれた息子のジャン=バティストもまた並外れた才能の持ち主で、その才能に嫉妬した父によって20歳の頃には牢獄に閉じ込められ、フランスから追放される危機に陥った話はよく知られています。
残酷な少年時代を過ごしたにも関わらず、息子ジャン＝バティストは1747年に出版権を得て、父アントワーヌの作とする29曲のヴィオル作品に基づく5つの組曲を出版しました。即ち、アントワーヌ・フォルクレ「通奏低音付きヴィオル曲集 Pièces de viole avec la basse continue」です。この曲集の序文より、第３組曲に３つのジャン=バティストの作品「アングラーヴ La Angrave」「ヴォセル La du Vaucel」「モランジあるいはプリゼー La Morangis au La Plissay」を加えたことが分かっています。又、バス旋律及び通奏低音の数字付け、そしてヴィオルの指使いもジャン=バティストの手によることが明記されています。ヴィオルの音色を巧みに使い分ける手法、低音弦のハイ・ポジションの使用、あまりそれまで例が無かった配置を持つ和音など、実験的と言える試みが見られ、ヴィオルの可能性を開拓した作品だと言えるでしょう。
そして、ジャン=バティストは、この父の曲集のクラヴサン用編曲も出版しました。クラヴサン独奏への編曲は決して珍しいものではありませんが、音域工夫のための移調が行われることもまた珍しいことではなかったにも関わらず、この作品集ではヴィオルの低音域の使用を保持したまま編曲が行われています。クラヴサン独奏版曲集の序文を見ると、ヴィオルの低音弦の響きによるキャラクターを維持するために音域の変更を行わなかったことが記されています。しかしながら、より作品のキャラクターを表現するためのクラヴサンらしい技巧的な工夫を曲集のあらゆる部分で見ることが出来ます。
フォルクレ父子の「ヴィオル曲集」は、このようにして「ヴィオルと通奏低音用の楽譜」と「クラヴサン独奏の楽譜」の二種類の楽譜として残されています。フォルクレと聞いて父アントワーヌを思われた方は前者を、息子ジャン＝バティストを思われた方は後者をよく聴かれているのではないかしらと思いますが、本日はこの二つの楽譜をそれぞれのピースに割り当てて演奏致します。又、私たちの演奏表現において両版を同時に用いることが出来ると思えたものは、リピート時に版を入れ替えて演奏するということも行います。二つの楽譜によるフォルクレの５つの組曲をお楽みいただけますと幸いです。
最後に判っている範囲で恐縮ですが、各ピースに付けられたタイトルについてプログラム順に説明を記載いたします。フォルクレ父子のヴィオル曲集には、タイトルに人物名が付されたものが多くありますが、人物のキャラクターを音楽で描く肖像画のような「ポルトレ」と呼ばれる音楽がこの時代のフランスでは多く書かれていました。フォルクレのヴィオル曲集の殆どがポルトレで構成されています。

<1st Stage>

第１組曲 Suite I
ラボルド La La Borde : 音楽家ジャン=バンジャマン・ド・ラボルド(1734-1794)の兄で徴税請負人のジャン・ジョゼフ・ド・ラボルド(1724-1794)のポルトレ。
フォルクレ La Forqueray : アントワーヌ・フォルクレのポルトレ。
コタン La Cottin : 恐らくサン・エティエンウ・デュ・モンの司祭コタンのポルトレだと思われる。
ベルモン La Bellmont : フォルクレと演奏していたと伝えられるヴィオル奏者のポルトレ。
ポルトゥゲーズ La Portugaise : ポルトガルの女性を描いている。
クープラン La Couperin : 同じ宮廷で共に活躍していたフランソワ・クープラン(1688-1733)へのオマージュ。クープランのクラヴサン曲集第３巻の第２７オルドルには、フォルクレの名を持つピースが含まれる。

第2組曲 Suite II
ブーロン La Bouron : 恐らく音楽家ジャン＝ジョゼフ・カッサネア・モンドンヴィユ(1711-1772)の公証人ボロンのポルトレ。
マンドリン La Mandolin : 楽器のマンドリンを描いている。
デュブリュイル La Dubreüil : 恐らく「和声の手引き Manuel harmonique」(1767)と「リリック辞典Dictionnaire lyrique」(1764)の著者であるクラヴサン教師ジャン・デュブリュイル(1710?-1775)のポルトレ。
ルクレール La Leclair : ヴィルトゥオーゾのヴァイオリニスト、ジャン=マリー・ルクレール(1697-1764)のポルトレ。
ビュイソン La Buisson : ジャン=バティスト=アントワーヌ・フォルクレの妹シャルロットの夫で、議員・検察官であったピエール・ビュイソンのポルトレ。舞曲シャコンヌとして書かれている。

第４組曲
マレッラ La Marella : 1745年の皇太子妃の結婚式で演奏したヴァイオリニストのポルトレと思われる。
クレマン La Clément : クラヴサン教師であり作曲家のシャルル=フランソワ・クレマン(1720-1781以後)のポルトレと思われる。
ドーボンヌ Sarabande. La D’abonne : 不明。
ブルノンヴィユ La Bournonville : ラボルドに仕えていたクラヴサン奏者アントワーヌ・ブルノンヴィユ(1675-1753)のポルトレ。
サンシー La Sainscy : 不明。
パッシーの鐘 La Carillon de Passy : パリ近郊のパッシーを描いている。18世紀のパッシーはファッショナブルな場所で、アレクサンドル・ド・リッシュ・ド・ラ・ポプリニエール(1693-1762)の主催でコンサートが開催されていた。
ラトゥール La Latour : パステル画家モーリス・カンタン・ド・ラ・トゥール(1704-1788)のポルトレ。

<2nd Stage>

第５組曲

ラモー La Rameau : 作曲家ジャン=フィリップ・ラモー(1683-1764)のポルトレ。
ギニョン La Guignon : ヴァイオリニストのジャン=ピエール・ギニョン(1702-1774)のポルトレ。
レオン La Leon : 恐らく、１７４３年に亡くなったマリー=エリザベス・デュ・ベックへのオマージュ。
ボワゾン La Boisson : ジャン=バティストの最初の妻との結婚立会人であったマーク=アントワーヌ・ボワゾンのポルトレ。
モンティニ La Montigni : プロイセンの科学者エティエンヌ・ミニョット・ド・モンティニ(1714-1782)のポルトレ。
シルヴァ La Sylva : 恐らく王妃の主治医ジャン=バティスト・シルヴァのポルトレ。
ユピテル Jupiter : 詩と気象を司るローマ神話の主神ユピテルを描く。曲中に雷鳴を描写する部分がある。

第３組曲 Suite III
フェラン La Ferrand : クープランの弟子のジョゼフ・イアサンテ・フェラン(1709-1791)のポルトレ。
摂政 La Régente : オルレアン公フィリップ(1674-1723)のポルトレ。
トロンシャン La Tronchin : 恐らく当時最も有名であった医者テオドール・トロンシャン(1709-1781)のポルトレ。ヴォルテールやディドロと交友があった人物である。
アングラーヴ La Angrave : 不明。ジャン=バティストの手によって加えられたピース。
デュ・ヴォセル La du Vaucel : 恐らく天文学者のシャルル・ヴォセルの父のポルトレ。ジャン=バティストの手によって加えられたピース。
エノー La Eynaud : シャルル=ジャン・フランソワ・エノー(1685-1770)のポルトレ。
モランジまたはプリセー La Morangis ou La Plissay : 不明。ジャン=バティストの手によって加えられたピース。